様式第３号

令和６年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	43	学 校 名	静岡県立焼津中央高等学校	校 長 名	遠山　一郎

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**・基礎学力の確実な定着を図るとともに、資質・能力の育成を念頭に置いた授業改善に取り組み、進路実現を可能とする学力を育成する。**	・基礎学力が定着する。 ・学習支援サービスの有効活用により、生徒が自身の学習状況の振り返りと改善ができ、教員は指導に生かす。 ・指導と評価の一体化を意識して授業改善に取り組んだ教員70%。 ・学びの基礎診断、模擬試験等の結果の共有と分析を生かし、年間４回の面談実施により具体的指導が徹底される。	・課題や小テストによって基礎学力が定着したと答える教員92.8%生徒84.5%。 ・授業改善に取り組んだ教員90.5% ・４月と９月に面接週間を設定、夏季休業期間と冬季休業期間を利用し、三者面談（一部二者面談）を実施。	A	・生徒が小テストや課題に向けて計画的に準備、取組ができるように学年教務中心に調整していきたい。 ・教科会議で育成を目指す資質・能力について共有し、授業改善について話し合う時間がもてるようにしていきたい。 ・教科会議でＩＣＴの効果的活用方法について話し合う時間がもてるようにしていきたい。
		・授業で1人１台端末の活用を意識して行った教員70%。 ・1人１台端末を日常的に活用したと答える生徒70%。	・ICT(googleclassroom, スタディサプリ等)について、公務や授業で有効活用したと回答する教員95.2%。 ・生徒使用状況90.9%。		

様式第３号

イ	・校則及び社会規範を遵守する意識を育てる。 ・基本的生活習慣の確立と心身の健康管理を図る。	・場に応じた挨拶と対話ができる生徒100%。 ・不注意遅刻者が年間20人以内、交通事故10件以内。 ・一時不停止・並進違反が20件以内。 ・服装の乱れ等で再指導を受ける生徒0%。	・始礼遅刻者は1日平均3.5人。不注意遅刻34 ・交通事故11件（加害２件） ・一時停止違反49、並進違反39 ・冬期登下校時の服装の乱れが一部あり。冬期校舎内での上着着用について授業内は徹底されていた。	C	・時差登校を呼びかけた。 ・交通事故R4:15件　R5:17件から比較して減少している。一時停止順守、車の出入り注意、他の自転車や歩行者への配慮の醸成を促していく。 ・取締まり強化により違反切符が増加している。ルール意識を校外指導により高める。 ・服装について校則見直しを生徒会とともに行った。下校時の服装運用事項変更し、部活動ごとに自覚を持たせた。今後の行動を見守る。来年度新制服と重なるため、そのほか服装規定運用上の見直しを図る。
		・心臓病、貧血等の健康診断有所見者受診率100%。 ・緊急時には職員がマニュアルにより適切な対応ができる。	・受診率100%. ・年度当初に、既往症のある生徒を周知、エピペンおよび熱中症対策のセミナー実施。	A	・緊急時の職員の対応の仕方や連絡体制の確認等は、年度当初および行事前に職員研修会等で、例年通り必ず行い、徹底する。 ・健康診断有所見者の受診率は常に100%を目指し、医師の診断や所見に従い、適切に対応していく。
		・適切な助言により、生徒との信頼関係が深まる。 ・組織による対応が可能となり、該当生徒及び担任等への支援が充実する。	・困難を抱えた生徒・保護者にスクールカウンセラーを紹介し、担任・学年部と対応を検討した。（のべ70人程度と面談実施。）	A	・今年度は、スクールカウンセラーとの面談が昨年度の延べ30人程度から70人程度と倍増した。スクールカウンセラーや外部専門機関の助言を受けながら、職員間で連携して生徒や保護者の対応にあたる。 ・連携外部機関とは学校も定期的に連絡をとり、支援内容の客観的なチェックに活かす。
ウ	**・全校生徒が生徒会活動に参画し活性化する。** **・学校行事や部活動により、積極性・主体性を育てる。**	・全生徒が委員会等の活動や地域行事等に参加し、自己有用感が高まった生徒80％以上。 ・全生徒の技術や意欲が向上し、自己肯定感が高まった生徒80%以上。	・文化祭、体育祭では生徒主体の運営力が高まってきた。 ・部活動アンケートにより９割の生徒は積極的な活動ができている。	B	・文化祭では仮設校舎開催で見通しがつきにくい中、新企画に挑戦する執行部の主体的な姿が見られた。体育祭での体育委員による事前準備がなされた。さらに企画力を高めたい。各委員会の活動ボリュームを見直したい。

様式第３号

	・探究活動の活性化	・探究活動を通じて自分の課題解決力が高まったと答える生徒70％以上。 ・リアルアクションを実行した生徒100%。 ・探究活動を通して、SDGsや大学の研究に関して学び、地域や社会の問題に関心を高め、進路希望決定や志望理由書の作成に生かすことができる。	・SDGs探究プロジェクトを行った。１，２年生は４月から12月まで探究の基礎を学び、１月よりSDGs探究活動を行い、代表作を集会で発表した。 ・概ね総合的な探究の時間についての改善点などを共有することができた。	A	・総合的な探究の時間に関しては、昨年度と同様に、学年部の協力の下、SDGs探究活動につなげる取り組みを行っている。 ・「第６回高校生が競うEnergy Pitch！（エネルギー・ピッチ)」や、「第24回 AITサイエンス大賞」（優秀賞）に参加した。
	・中高大連携事業の推進	・実験・実習に参加した生徒の満足度80％以上。 ・授業に参加した中学生の満足度70%以上。 ・中学生に教えたことで実験・実習の成果が生かせたと答える生徒80%以上。 ・研修後の生徒アンケートの満足度90％以上。	・満足度平均88.6% ・中学生満足度88.7% ・科学への関心が向上した高校生97.3%		
	・教科学習や探究学習、研修等を通じてグローバルな視点と思考、英語４技能対応力を育てる。	・研修に参加して、英語活用能力が向上したと答える生徒80%以上。 ・民間検定試験等での実績向上	・BritishHills参加者アンケートより、「非常にそう思う」「そう思う」回答生徒79.3%		

様式第３号

エ	**・スパイラルアッププログラムによる個々の能力・適性の伸長と、主体的・探究的な姿勢を育成し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。** ・教育改革、新大学入学試験等への対応を深化・充実させる。 ・教員の進路指導力の向上。	・共通テスト６教科８科目受験者を共通テスト受験者の70%以上、かつ国公立大学受験者を学年70%以上。 ・国公立大合格数150人以上。 ・難関大合格数（旧帝・ブロック等）20人以上。 ・教員の教育改革、大学入学試験等への理解が深まり、進路指導に生かすことができる。 ・担任研修会や検討会等の研修機会に参加する教員100%。 ・希望者対象の各種研修会、研究会に10人以上参加する。	・共通テスト出願者283人、英語受験者279人、6-8受験者258人（91.1%）。 ・国公立受験者247人(87.3%、前中後期合わせのべ355人)。 ・国公立大学合格者数191人 ・難関大（旧帝・ブロック・医学部）合格数20人。 ・推薦入試や総合型入試をはじめ、小論文や面接指導に関して、全職員で配分して指導に当たった。	A	・進路保護者会等で国公立大学の魅力を発信することができた。生徒の進路希望調査から、地方の国公立大学を志望校にあげる生徒の数が多いことが感じられる。今後も継続して全国の国公立大学の魅力を発信していきたい。 ・共通テストにおいて６教科８科目を受験した生徒は258人だった。また後期入試まで努力を続け受験した生徒は83人、合格した生徒は46人となり、粘り強く親身な指導が実を結んだ。
オ	・読書習慣の定着と読書量の増加及び読書の質の改善に努める。	・読書週間等の活動を通して読書への関心を高め、年間３冊以上読む生徒が全体70％以上になる。 ・ライブラリー（図書委員作成の生徒用広報誌）を年10回以上、新刊図書案内を月1回発行し、貸出数が増加する。	・読書週間７月と11月に実施。 ・年３冊以上読む生徒45.7％(昨年比-7%)、貸出数平均は3.0冊（１/15現在)。 ・ビブリオバトルを１月のLHRで実施し、１．２年生全員が参加した。	A	・7月の読書週間は各学年テーマに沿った本を読むという提案をしており、2・3年生の56%（読書週間アンケート）が図書室や学級文庫から借りた。(1年生は生徒数分のテーマ本を用意しきれなかった) ・3冊読んだ生徒は目標値にだいぶ遠いが、読書週間で読書への関心が高まった生徒は68.2%(学校生活アンケート11月)で昨年度比＋11%だった。読書週間の取り組みが良かった生徒も78%であり、読書時間確保の観点からも継続する意義がある。 ・校内ビブリオバトルに８名が参加し、上位２名が県大会に出場した。

様式第３号

カ	・主権者・生活者としての自覚を促し、政治や選挙・消費に関する知識を身につけ、関心をもたせる。	・政治的教養が高まり、政治や選挙への関心が高まったと感じる生徒が80%以上。 ・主権者・生活者としての自覚が高まった生徒60%以上。	・66.4% ・74.8%	B	
キ	・広報活動を充実させ、積極的な情報発信をするとともに、地域から信頼される学校としての体制づくりをする。 ・地域との交流を推進する。	・学校ホームページのシステム移行及び全面刷新。 ・学校ホームページの内容の充実と年間閲覧者数の増加。 ・新校舎関係の情報提供週１回 ・学校説明会に参加した中学生の満足度80%以上。 ・クラウドサービスによる情報提供に満足していると答える保護者90%以上。 ・各学年１回以上の保護者会を実施する。 ・電話、窓口対応に対するクレーム０件。 ・地域との交流活動が前年度より30％程度増加する。	・１月14日に新ホームページに移行。全職員で記事作成を行っている。 ・情報提供に満足している保護者90.9% ・学校説明会参加中学生満足度98%。 ・91.0% １年部２回 ２年部２回 ３年部１回 ・クレームはなし ・ R5.83 件 → R6.95件。 14％増。	A	・ホームページの移行に伴い、担当教員が更新する部分を明確化したので、更新はしやすくした。軌道に乗せるために、各学年や分掌に更新の声掛けが必要である。 ・PDFでプリントを送信することで確実に保護者に情報が伝わることは有効である。

ク	・危機管理能力を高めるとともに地域の安全と防災に貢献する。 ・コンプライアンス遵守の意識の確実な向上を図る。	・災害発生の際、教職員及び生徒が速やかに的確な減災対応をとることができ、負傷者を０名とする。 ・地域防災訓練への年１回以上の参加率90%以上。 ・声を掛け合い、チーム力向上を意識する教職員100%。 ・不祥事の発生０件。 ・職員の交通事故０件。	・全体の48.3%が年一回以上防災訓練に参加した（不参加のうち参加対象外、未実施を除くと84％が参加）。地域防災訓練は大雨のため中止となった。 ・92.8%（42人中39人） ・案件あり。 ・２件	B	・学校の防災訓練や避難訓練、防災に関する集計などにおいて、積極的に防災委員を動かし、意識を高く持たせ活性化に努めた。 ・防災訓練や避難訓練を行い、今起こってもおかしくない状況にある大地震への備えを考えさせる。 ・職員会議議題や研修に組み込んでもらうなどして、教職員の防災意識の向上を推進する。 ・地域での防災訓練が実施され始めた。各生徒が自身の地域における役割を確認するような取り組みを考える。 ・防災委員会の主体的な活動を促すよう指導していく。 ・職員室内の雰囲気は悪くないが、チーム力向上を意識できない職員もいる。不祥事対策は地道にしてきたが、力不足を感じる。
	・教職員、生徒を支援する校内研修等の充実と改善を研究、実施する。	・１人１台端末やＩＣＴを活用した授業・学習指導について研究した教員100％、実践した教員80％以上。 ・特別支援教育に関する意識や知識が高まった教員80%。 ・授業評価アンケートの結果を授業改善に生かすことができた教員80%以上。	・１人１台端末や ICT を活用した授業・学習指導について研究した教員85.7％。実践した教員83%。 ・特別支援委員会（校内および外部連携会議・面談）23回実施。 ・授業改善に活かした職員92.8%.	A	・1 人 1 台端末が全学年となり、ICT を活用する教員が増えた。今後は、授業での活用や生徒の個別学習の活用のノウハウを蓄積・共有していく必要がある。 ・授業改善のために今後も授業アンケートと教科別研修を継続していきたい。 ・特別支援教育研修会は、台風のため12月に延期し実施。 ・授業評価アンケート結果を積極的に利用している職員が多い。一方他の教員の授業参観を積極的ン行った職員は半数程度にとどまり、相互研修の必要性が感じられる。
	・働き方改革に向けて業務改善や円滑化に係る具体的措置の検討と実施。	・業務の削減又は改善について検討した分掌学年100%。 ・完全退勤時刻（20:00）と定時退勤日（曜日）を意識して	・各分掌の長に改善検討を依頼。 ・ワークライフバランスを考え時間を意識して働いている職員73.9%	B	・他校の業務削減取組例を参考に本校で取り組めることや学校で取り組んで欲しいことについて検討した。活かせる内容を精査していきたい。 ・部活動の休みが多い月曜日は年休や割振を取得し早く帰宅する職員も多くみられる。週休日の業務

		働いた教員80%以上。 ・時間外在校等時間が月80時間以上の教員が10％以下になる。	・時間外在校時間が月80時間以上の教員は9.38%。		は部活動によるものが多く、今後部活動の在り方検討の中で、意識改革が必要となる。 ・時間外在校時間が月80時間以上の教員には、健康チェックを行い、産業医に報告している。
ケ	・安心・安全な施設・設備および生徒の教育環境整備の充実を図る。	・教室の照度、CO_2、騒音の検査を年に２回実施。 ・年間のゴミの排出量　900kg以下。	・７月に左記の3検査を実施済み。１月に再度実施。 ・12月末現在で708kg。私物ゴミ持ち帰りの徹底、教室内ゴミ箱撤去継続により、減量化を図ることができた。	A	・7月の検査においては、特に照度、CO2, 騒音に関して問題はなかった。 ・来年度も猛暑が予想されるため、エアコンの適切な使用に努め、学習環境を整えていく。 ・昨年度は12月末でごみの排出量は868kgであり、減少している。 ・共通教室などに、ペットボトル等が放置されているときがあるので責任をもって処理するように呼び掛けていく。
		新校舎建設工事の工期遵守 ・新校舎移転計画の策定 ・施設等の不具合による事故０件。	新校舎は施工事情により工期延長を受け入れ、10月上旬の校舎移転を予定 施設等の不具合による事故０件 おおむね目標を達成した。	B	・工期延長を受け入れることになったが、10月上旬の校舎移転に向けて具体的な目処が立ち、設備や物品についても検討が進んだ。 ・施設の不備については速やかに改修し、事故の発生を予防することができた。